

## 再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課  
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道55号 桑野道路		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：徳島県阿南市下大野町渡り上り 至：徳島県阿南市内原町桜木				延長	6.5km
事業概要						
一般国道55号は、徳島市を起点として小松島市、阿南市、美波町、室戸市などを經由し、高知市に至る延長約230kmの主要幹線道路であり、四国広域幹線ネットワークを形成する基幹動脈として、四国東南地域の生活や経済、観光の振興に大きな役割を果たしている。 桑野道路は、地域高規格道路網として整備される「阿南安芸自動車道」の一部であり、四国横断自動車道及び高知東部自動車道と一体的に機能することにより、四国8の字ネットワークを形成し、徳島県南部の広域交流の促進及び地域活性化に大きく寄与する道路である。 また、南海トラフの巨大地震などの災害発生時における緊急輸送道路の確保や、第3次医療施設までの速達性の向上、地域産業（農水産業）の活性化支援などを目的として整備を推進している。						
H23年度事業化		H22年度都市計画決定		H27年度用地着手		R2年度工事着手
全体事業費	約430億円	事業進捗率	約12%	供用済延長	0.0km	
		(令和3年3月末時点)				
計画交通量	13,500～14,500 台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	1.1 (1.6)	569/663 億円	事業費：537/631 億円 維持管理費：32/32 億円	729/729 億円	走行時間短縮便益：628/628 億円 走行経費減少便益：78/78 億円 交通事故減少便益：24/24 億円	令和3年
	1.3 (2.0)					
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量：B/C= 0.97～1.3 (交通量±10%) (残事業) B/C= 1.1～1.5 (交通量±10%) 事業費：B/C= 1.02～1.2 (事業費±10%) B/C= 1.2～1.4 (事業費±10%) 事業期間：B/C= 0.99～1.2 (事業期間±20%) B/C= 1.1～1.4 (事業期間±20%)						
事業の効果等						
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等の当該路線の整備による路線バスの利便性向上が見込まれる。 ・徳島阿波おどり空港へのアクセス向上が見込まれる。 ②物流効率化の支援 ・徳島小松島港（重要港湾）へのアクセス向上が見込まれる。 ・県南部の農林水産品（あわびや伊勢えび、阿波尾鶏等）の流通の利便性向上が見込まれる。 ③国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路「阿南安芸自動車道」の一部として四国8の字ネットワークの一部を構成する。 ④個性ある地域の形成 ・「次世代LEDバレイ構想」「地域資源を生かした新たなにぎわいと活力を創出するまちづくり」を支援する。 ・県南地域の主要な観光地（日和佐うみがめ博物館やグリーン・ツーリズム施設等）へのアクセス向上が期待される。 ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（徳島赤十字病院）へのアクセス向上が見込まれる。 ⑥安全な生活環境の確保 ・死傷事故率が500件/億台キロ以上である国道55号・津乃峰筒崎線交差点において、交通量の減少により、当該区間の安全性の向上が期待できる。 ⑦災害への備え ・徳島県地域防災計画（令和2年10月）において第1次緊急輸送道路に位置付けられている。 ・緊急輸送道路（現道国道55号）が通行止めになった場合の代替路線を形成し、緊急輸送道路のリダンダンシーを確保する。 ⑧地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。						

⑨生活環境の改善・保全

- ・NOx 排出量の削減が見込まれる。
- ・SPM 排出量の削減が見込まれる。

⑩他のプロジェクトとの関係

- ・四国横断自動車道と一体的に整備することで四国8の字ネットワークの一部を構成する。

関係する地方公共団体等の意見

- ・徳島県、阿南市や周辺市町村及び期成同盟会等より、本事業の整備促進について積極的な要望活動が続けられている。
- ・徳島県知事の意見  
「一般国道55号 桑野道路・福井道路」の事業を継続するという「対応方針（原案）」案については、異議ありません。  
「一般国道55号 桑野道路・福井道路」を含む地域高規格道路「阿南安芸自動車道」は、「四国横断自動車道」とともに、「四国8の字ネットワーク」を形成し、安全・安心を確保する「命の道」となることはもとより、経済・産業の発展、観光振興など、地方創生を実現する重要な社会資本であります。  
このため、引き続き、コスト縮減を図り、早期供用に向けた事業推進をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- 「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成23年7月 日和佐道路 延長3.1km 2車線 開通
- ・平成24年4月 一般国道55号福井道路事業化
- ・平成25年11月 阿南道路 阿南市津乃峰町西分～阿南市橋町大浦 延長1.7km 開通
- ・平成28年4月 徳島南部自動車道 徳島津田 IC 事業化
- ・平成31年4月 阿南安芸自動車道 海部野根道路事業化
- ・令和2年3月 阿南道路 阿南市那賀川町中島～西路見町江川 延長2.1km 4車線化完成
- ・令和2年4月 徳島南部自動車道 立江櫛淵 IC 事業化
- ・令和2年4月 阿南安芸自動車道 野根安倉道路事業化
- ・令和3年3月 徳島南部自動車道 徳島津田 IC～徳島沖洲 IC 延長2.4km 開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・用地進捗率約84%、事業進捗率約12%（令和3年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・調査設計及び用地買収を推進中。
- ・また、下大野地区においては、令和2年度より橋梁工事に着手。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

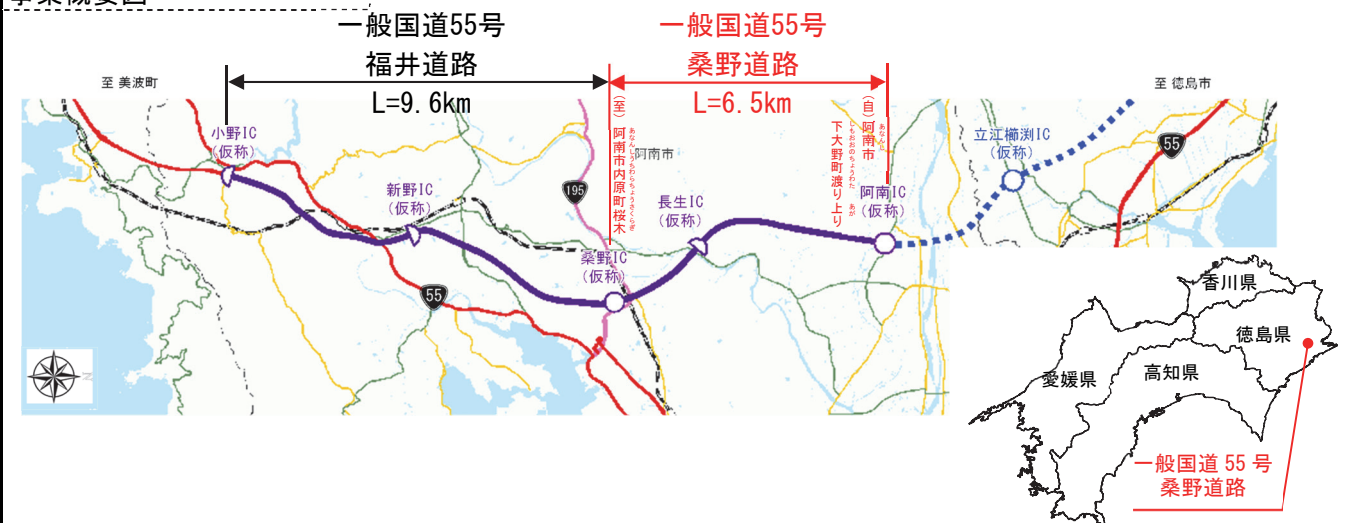
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。